

注意欠陥多動性障がいのある子どもの理解：補助資料①

☆注意欠陥多動性障がいの主な特性に即した指導方法①

「教育支援資料」では、注意欠陥多動性障がいの主な特性に即した指導方法として、7つの指導がありますので紹介します。実際に在籍する児童生徒をイメージしながら、確認してみましょう。



①不注意な間違いを減らすための指導

*指導の前に確認したいこと…不注意による間違いの要因を考える

- 他の情報に影響を受けやすいのか
- 視線を元の位置に戻し固定できないなど視覚的な認知に困難があるのか
- 僅かな情報で拙速に判断してしまうのか 等

【指導方法】

- いくつかの情報の中から、必要なものに注目する指導
- どのような作業でも終わったら必ず確認することを習慣づける。 等

②注意を集中し続けるための指導

*指導の前に確認したいこと…困難の状況や要因を考える

- どのくらいの時間で注意の集中が難しくなるのか
- 教科や活動による違いはあるのか 等

【指導方法】

- 一つの課題をいくつかの段階に分割
- 視覚的に課題の見通しを確認できるようにすること
- 窓側を避け、黒板に近い席に座らせるなどの集中しやすい学習環境を整える配慮するなどの工夫をする。

③指示に従って、課題や活動をやり遂げるための指導

*指導の前に確認したいこと…つまずく要因を考える

- 指示の具体的な内容が理解できていないのか
- 課題や活動の取組の仕方が分からないのか
- 集中できる時間が短いのか 等

【指導方法】

- 指示の内容を分かりやすくする工夫
- 分からない時には助けを求めることを指導
- 課題の内容や活動の量の工夫などにより、最後までやり遂げることを指導する。

④忘れ物を減らすための指導

* 指導の前に確認したいこと・実態の把握をする。

- 興味のあるものとないものなど事柄により違いがあるのか
- 日常的に行うものとそうでないもので注意の選択に偏りがあるのか 等

【指導方法】

- その子供に合ったメモの仕方を学ばせ、忘れやすいものを所定の場所に入れることを指導するなど、家庭と連携しながら決まりごとを理解させ、その決まりごとを徹底することにより、定着を図る。

⑤順番を待ったり、最後までよく話を聞いたりするための指導

* 指導の前に確認したいこと・つまずきの要因を考える

- 決まりごとは理解しているのか
- 理解している行動や欲求のコントロールができていないのか 等

【指導方法】

- 決まり事の内容と意義を理解させ、その徹底を図る指導をする。
- ルールプレイを取り入れ、相手の気持ちを考えることや、何かやりたい時に手を挙げたり、カードを指示させたりするなどの工夫をする。

⑥各教科の補充指導

子どもの状態等に応じ、注意欠陥多動性障がいの状態の改善・克服を図る特別の指導のほか、各教科の補充的な学習をすることも効果的である場合がある。これは、障がいのない子どもに対して一般的に行われる個別指導での「発展的な学習」や「補充的な学習」とは異なり、注意欠陥多動性障がい原因となって各教科の学習につまずきがみられる場合に、各教科の補充指導を行うものであるとしている。

⑦その他の指導

注意欠陥多動性障がいに起因する社会的活動や学校生活を営む上での困難は、それ自体に留まらず、場合によっては、それらが複合化されて他の様々な困難へ結び付くことがある。

- 例)
- ・多動性・衝動性により、順番を待つなどの社会的なルールが分かっているにもかかわらず通りに行動できないことがある。
 - ・思ったことをそのまま発言してしまったりすることによって、ソーシャルスキルの習得、コミュニケーション能力の発揮や対人関係の形成等が困難
 - ・注意欠陥多動性障がいにより、自己評価の低下がみられる場合

【指導方法】

これらの内容を取り出して特別に指導することや、様々な指導の中で配慮することなど、子どもの実態に応じて工夫することが大切である。